

スケートボーダーの日常的実践と  
都市空間の利用に関する一考察  
—富山市内のスケートボーダーを事例として—

人文学部人文学科人文地理学研究室

12210082 関島樹

# 問題の所在

- 都市の路上や街頭などの公共空間におけるストリートカルチャーの活動は、道路交通法により禁止されている（道路交通法第76条）
- 行政機関とストリートカルチャーは、「管理者」と「管理をかいくぐろうとする者」という対立的な関係にある（鳴尾 2008）

# 問題の所在

## 1990年代前半

- スケートボードがストリートカルチャーとして流行
- スケートボードをする若者が広場にたむろするようになり、騒音やゴミの放置、縁石の破壊等の問題が発生
- 周辺住民との衝突が起き、公共の場でのスケートボードは禁止され、取り締まりの対象となる

# 問題の所在

## 1990年代後半

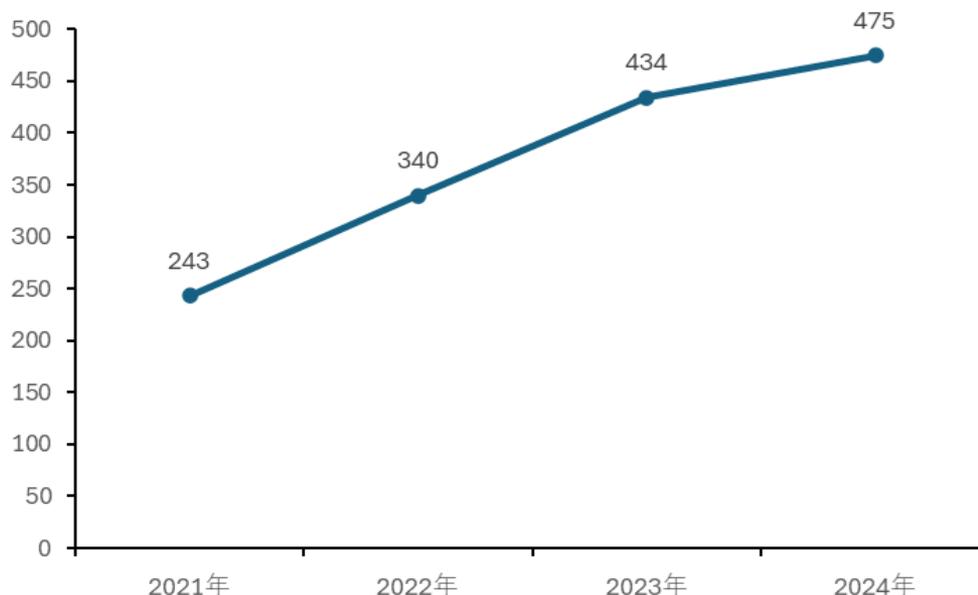
- スケートボーダーが、自分たちの滑る場所を求めて署名活動や陳情を行うようになる
- こうした動きは全国で見られるものの、スケートボード専用の広場の設置は、スケートボーダーの活動を特定の場所に制限する「囲い込み」であるとする指摘もある（鳴尾 2008）
- 用意された広場も満足いくものではなく、管理に従いつつも、その裏ではストリートでのスケートボードを試みる（田中 2003）

# 問題の所在

## 近年の動向

- 2016年にスケートボーディングがオリンピック種目として採用された事を契機に、全国的に公共施設としてのスケートボードパークの整備が顕著になる（田伏2025）

→ストリートカルチャーとオリンピック競技の2つの側面



全国におけるスケートボード施設数の推移  
(2024年度全国スケートパーク総数調査報告により作成)

# 既存研究

山口 (2002)

## 目的

- 大阪・ミナミのストリートパフォーマーへの聞き取りから、彼らがどのように都市を利用し、意味づけを行うのかを論じる

## 結果

- 都市内部で活動するパフォーマーは、警察が規制を開始すると一旦立ち去り、時間をおいてから活動を再開するなど巧みに規制をかいくぐりながら活動している
- 都市空間の利用や消費の形態は活動の目的によって異なる

# 既存研究

山口 (2008)

## 目的

- 東京都の「ヘブンアーティスト事業」を対象に、都市の公共空間におけるアーティストの実践と行政による管理の関係を明らかにする

## 結果

- アーティストは厳しい管理を受け入れつつ、規則を拡大解釈したり従順にみせながら逸らしたりする実践を行う
- 売り上げの良い場所や管理者が好意的な場所を選択

# 既存研究

杉山（1984）

## 目的

- 富山市駅前を事例に，盛り場に集まる人々がどのように空間に意味を付与しているのかを記す

## 結果

- 日常生活では好ましくない行為を正当化してくれる駅前に「落ち着く」「安心」といった愛着が示された
- 若者は駅前に，日常では満たされない願望が叶う祝祭の場を見出し，単なる街路にも新たな遊びの場を発見したり，安らぎをもたらす所という意味を付与したりしている

# 既存研究

三木（2008）

## 目的

- 路上活動者の実態をミクロに捉え、彼らとストリート空間あるいは社会環境とがどのように結びついているのか議論
- 路上活動者の活動分布を時間・空間的パターンから把握した上で社会的環境との社会的ネットワークを描出

## 結果

- 路上活動がバンドル化し、それによってバーチャルな空間を含む様々な人間関係が構築され、社会的ネットワークが再生産されている

# 既存研究

市川（2009）

## 目的

- 目的なくたむろする若者に対する研究の遅れを指摘
- 水戸駅に集まる若者の空間行動の調査を通して都市の公共広場が若者の居場所としてどのように機能しているかを明らかにした

## 結果

- 若者にとってお金がかからず長時間滞在できr駅は魅力的な余暇空間である一方で、駅に集まる若者同士の交流は活動毎に限定されている
- 集団毎に異なる意味を持った居場所が形成されている

# 既存研究

田中（2003）

## 目的

- スケートボーダーの都市広場の利用を手がかりに，都市空間の利用をめぐるせめぎ合いを明らかにするとともに，彼らの「巧みな実践」の意味と意義を検討

## 結果

- 当初はスポーツ的な身体活動として認識されていたが，苦情が相次ぐと逸脱的な行為として管理や排除の対象に
- 広場の路面やセクションに物足りなさを感じ，ストリートへ

①共同的な実践 ②創造的な実践 ③探求的な実践

→管理や排除を受け入れながらも，ストリートでのスケートボードを続け，圧力を無効化

# 既存研究

田中（2004）

## 目的

- 土浦市内でスケートボードを行い若者集団が、スケートボード以外のアクターと構築する社会的ネットワークに着目しながら、下位文化的活動の展開を明らかにする

## 結果

- スケートボーダーは地元住民との衝突をうけ、各アクターと連携しながら市当局に働きかけ、パークを設置
- 設置活動で構築された社会的ネットワークを通じて、市民ネットワーク組織の会合にも参加していた

# 既存研究

鳴尾 (2008)

## 目的

- 姫路市のスケートボード場「スポーツパーク」の形成過程を、それに関わるアクターの諸関係を示しながら明らかにした
- 「都市の政治」に着目し、スポーツパークをめぐる政治的、社会的諸関係を明らかにした

## 結果

- パーク設置の請願が衆院選立候補者の票獲得に利用されたことで政治的意味を帯び、市当局と市議会の間で活動が翻弄されていた
- パーク設置の決定後に、利用期間は2年間のみであることが明かされた

# 既存研究の整理と課題

- ストリートと行政の関係に着目した研究

山口（2002） 山口（2008）

- 若者同士の関係に着目した研究

杉山（1999） 三木（2008） 市川（2009）

- スケートボーダーを題材にした研究

田中（2003） 田中（2004） 鳴尾（2008）



都市のストリートをめぐって管理と実践が交錯するあり  
ようを、ストリートのレベルから内在的に記述すること  
が今後の課題（山口 2008）

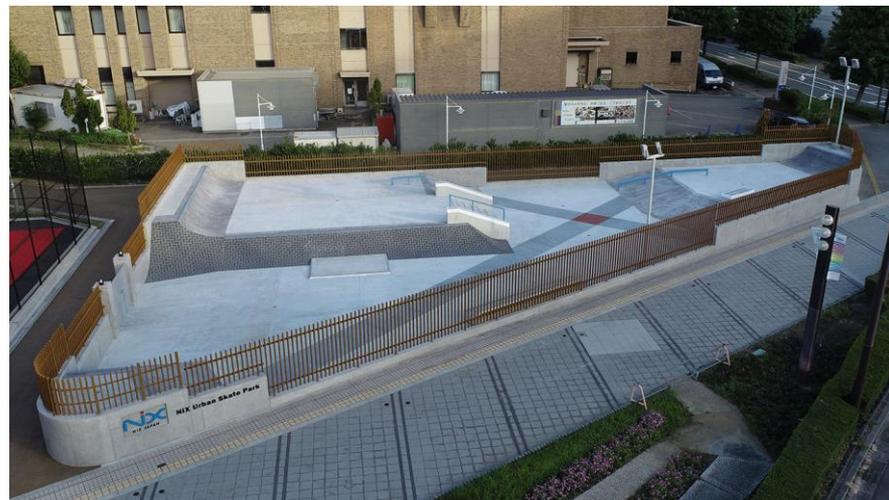
# 研究目的

富山市におけるスケートボーダーの日常実践を現場の視点から、彼らの行動や意味づけに即して記述するとともに、都市空間の利用の展開とその要因を考察する

# 調査対象

## NIXアーバンスケートパーク

- NIX JAPAN株式会社が自己資金で建設
- 営業時間は平日9:00~21:00, 休日9:00~22:00で入場無料
- 初心者向けの体験会や大会等のイベントも開催されている
- 富山市出身のプロスケートボーダーである中山楓奈選手が監修



# 調査対象

## 地下広場

- とやま都市MIRAI計画により整備され，2000年に完成
- 総面積は850m<sup>2</sup>で，中央にはベンチやからくり時計が設置されている
- 十分な広さがあり，路面の凹凸が少なく，雨風の影響がないことからスケートボードを行うのに適している



# 調査方法

- 8月～10月にかけて、地下広場とパークで活動するスケートボーダーに対して複数回聞き取り調査を行った
- 聞き取り内容は既存研究に倣い、基本的な質問項目を設定しながらも、インフォーマントの自由な語りを中心とした



調査対象地  
(OpenStreetMapにより作成)

# 調査結果（スケートパーク）

表1 聞き取り調査結果

| 対象者 | 性別 | 学年 | スケートボード歴 | 利用頻度   |
|-----|----|----|----------|--------|
| A   | 男  | 中3 | 4年       | 週2～3回  |
| B   | 男  | 中2 | 3年       | 週1～2回  |
| C   | 男  | 高3 | 6年       | 週1～2回  |
| D   | 女  | 高1 | 6年       | 週2～3回  |
| E   | 男  | 中3 | 7年       | 平日ほぼ毎日 |

（聞き取り調査により作成）

- 利用者の多くが小学生～高校生
- 個人の属性や技能を問わず，全員が平等にパークを利用している
- D・E「特に待ち合わせをしているわけではないが，行けば大体いるから一緒に滑る」  
→ **スケートパークが交流の場として機能**

# 調査結果（スケートパーク）

A

- 立山町に住んでいて、平日は学校が終わってから電車でスケートパークまで通っている
- 以前は家の前の道路で滑っていたが、充実した施設を求めてパークに

- 小さい子どもが滑っているのをパーク外で見守ったり動画を撮ったりしている親の姿もよく見られた

→ **スポーツとしての側面の拡大**

**都市空間におけるスケートボードの位置づけを再定義**

# 調査結果（地下広場）

- グループのほとんどが成人済みで日中は就労している
- 地下広場に集まるのは金曜日や土曜日の21時半～22時頃が多い
  - 翌日の仕事に影響のない日時を選択
- （発話1）「集まる曜日や時間は決まってない」
- 調査を行った日によってグループのメンバーの一部が入れ替わっている
  - グループのつながりは流動的かつ緩やか

# 調査結果（地下広場）

- （発話2）たまには警察に注意されることもありますけど、そこまで厳しくはされないっすね。（中略）注意されたら一旦は大人しく従いますし。
- （発話3）警察は通行人とかからの通報を受けると来るんですけど、あまり強くは干渉してこないです。
- （発話4）通行人とかに文句を言われることもほとんどないっす。自分らも人通りが少ない深夜に滑るようにしてるんで、人が通るときは滑らないし。

→ 周囲との軋轢を減らし、良好な関係を築くことで、地下広場の継続的な利用を可能にしている

# 調査結果（地下広場）

- （発話5）冬は外だと滑れないのでよく来ます。あと、仕事終わってからだと（パークが閉まって）満足に滑れないので、滑り足りないときによく来てます。
- （発話6）ストリートのほうができる技も増えるし、天気も関係ない。お金もかからないし時間も気にしなくていいので。  
→ストリート（地下広場）は時間や空間的に縛られていないことが魅力の一つ

# 調査結果（地下広場）

- （発話7）なんて言うか，縛られない感じがいいっすね。パークとかよりもストリーットのほうが縛られずに自由に滑れる。
- （発話8）パークもイヤじゃないっすけど，人が多い。特に小さい子が多いと周りに気を遣いながら滑らなきゃいけないのがだるい。自分が滑ってるところにちっちゃい子がいてすみませんってなる。  
→パークが子どもや初心者で混雑するようになった結果，自由を求めるスケーターたちは自由なストリートへ

# 調査結果

- (発話9) じゃあ、ギャルと普通の人だったらどっちがいいかって話ですよ。ギャルのほうがいいっすよね。それと一緒にです。

## ギャルマインドの定義 (吉田 2022)

- 周りの目を気にしない, 自分らしさを重視する, 破っても誰にも迷惑をかけないルールや意味のないルールは破ってもよい等
  - 型にはまりたくない気持ちの表れ
  - 地下広場に「自分を解放できる場」というイメージを付与

# 都市空間利用の階層化

表1 聞き取り調査

| 対象者 | 性別 | 学年 | スケートボード歴 | 利用頻度   |
|-----|----|----|----------|--------|
| A   | 男  | 中3 | 4年       | 週2～3回  |
| B   | 男  | 中2 | 3年       | 週1～2回  |
| C   | 男  | 高3 | 6年       | 週1～2回  |
| D   | 女  | 高1 | 6年       | 週2～3回  |
| E   | 男  | 中3 | 7年       | 平日ほぼ毎日 |

(聞き取り調査により作成)

- パーク利用者のほとんどが未成年
- 地下広場で滑るスケートボーダーは成人済み  
→年齢による都市空間利用の階層化

# 都市空間利用の階層化

## スケートパーク

- 小学生～高校生にかけての未成年は親の監督下に置かれている
- スケートパークはスケートボードを行う場として公認された空間，安全性が担保されている
  - 親の庇護の下，スケートパークへと取り込まれる

## 地下広場

- 成人済みのスケートボーダーはパークの開場時間に間に合わない
- 混雑したパークでは周囲に気を遣わなければならない
  - パークからストリート空間へと押し出されている

# 参考文献

- 市川和子 2009. 水戸駅という若者の居場所. 人文地理 61(2):16-28.
- 杉山和明 1984. 社会空間としての夜の盛り場—富山市「駅前」地区を事例として—. 人文地理51(4):68-81.
- 田中研之輔 2003. 都市空間と若者の「族」文化—スケートボーダーの日常実践から—. スポーツ社会学研究11:46-61.
- 田中研之輔 2004. 「若者広場」設置活動にみる都市下位文化の新たな動向—「土浦駅西口広場」設置を求める若年層の諸実践から—. 年報社会学論集17:120-131.
- 田伏夏基 2025. スケートボードパークの整備にみる公共空間の管理と自治. 2025年度日本地理学会春期学術大会発表要旨集.

# 参考文献

- 鳴尾茉樹 2008. 姫路市におけるスケートボード広場の形成過程—若者が体験した「都市の政治」—. 地理科学 63(2):66-79.
- 三木和美 2006. 大阪キタにおける路上活動者とその社会的ネットワーク—梅田新歩道橋界隈を中心として—. 人文地理 58(5):57-71.
- 山口晋 2002. 大阪・ミナミにおけるストリート・パフォーマーとストリート・アーティスト. 人文地理54(2)65-81.
- 山口晋 2008. 「ヘブンアーティスト事業」にみるアーティストの実践と東京都の管理. 人文地理60(4)1-21.
- 吉田梨桜 2002. ギャルマインドの定義とデザインへの影響—ギャルマインドを持つことによって社会に訴えられる行為のデザイナー—. 日本デザイン学会研究発表大会概要集69:54-55.